

Ⅱ-A-16 慢性関節リウマチに対する柴苓湯の使用経験

健友会上戸町病院

○浦川伸弘

【目的】 近年、慢性関節リウマチ（以下RA）に対する漢方治療が見直されつつある。今回、RAに対し柴苓湯の使用を試み、治療した症例を経験したのでここに報告する。

【方法】 RA管理患者1636例中、主として虚実中間証で、腹証において胸脇苦満を有するRA患者214例、男性14例、女性200例に対しツムラ柴苓湯エキス顆粒1日9gを投与し、ランスバリー活動性指数の変化などを観察した。

【結果】 脱落例19例を除く195例、男性10例、女性185例につき検討を加えた。経過観察期間は1ヶ月～1年1ヶ月、平均10ヶ月で、柴苓湯単独使用例は100例、他剤併用例は95例であった。195例に対する効果は、著明改善29例(14.9%)、改善114例(58.5%)、軽度改善36例(18.5%)、不変8例(4.1%)、悪化8例(4.1%)であった。副作用出現は、16例(8.2%)で内容は13例(6.7%)に消化器症状、2例(1.0%)に軽度の肝機能異常、1例(0.5%)に動悸が出現した。副作用出現例の中で中止例は6例で、残り10例は症状、所見は軽度持続していたが継続投与可能であった。ランスバリー活動性指数は薬剤投与後1ヶ月後より有意の改善を見ており、症例によっては、1週間で症状の改善がみられた。4項目の中でも朝のこわばり及び関節点数が有意に改善をみた。

【考察】 漢方において、RAは水分の代謝障害と血液循環の悪化が原因とされている。RAに用いられる漢方薬は、駆水剤、利尿剤としての作用を持つものが多い。柴苓湯は、小柴胡湯と五苓散の合剤で、その薬理効果には利尿作用、抗炎症作用増強効果などが知られており、利尿剤に分類される。195例を著明改善及び改善群と軽度改善、不変及び悪化群との2群に分け、薬剤投与前の諸項目に関して比較検討をした。RA罹病期間、朝のこわばり時間、握力、免疫グロブリンIgG、IgAの項目は、この2群間で有意の差を認め、罹病期間の長い例、RA活動性の高い例は、比較的效果が少ないことがわかった。また、漢方単独投与群と他剤併用群との改善度の違いを見たがほとんど有意の差はなかった。

【結論】 今回、RAに対して随証治療を行い柴苓湯を使用した。柴苓湯は単独投与または他剤併用において約73%の例で有効であった。重大な副作用の出現もなく、随証治療がなされるなら漢方治療はRA治療の第一選択薬としても位置付けられるものとする。